

『旧地理A』，『旧地理B』

問題作成部会の見解

『旧地理A』

1 出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

- 地理に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程を重視する。地理的な見方や考え方を働かせて、地理に関わる事象の意味や意義，特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり，地理的な諸課題の解決に向けて構想したりする力を求める。問題の作成に当たっては，思考の過程に重きを置きながら，地域を様々なスケールから捉える問題や，地理的な諸事象に対して知識を基に推論したり，資料を基に検証したりする問題，系統地理と地誌の両分野を関連付けた問題などを含めて検討する。

2 各問題の出題意図，解答結果及び自己評価等

第1問 学習指導要領「地理A」の「(1) 現代世界の特色と諸課題の地理的考察」における「ア 地球儀や地図からとらえる現代世界」，「(2) 生活圏の諸課題の地理的考察」における「ア 日常生活と結び付いた地図」，「イ 自然環境と防災」に関する大問である。問1は，陰影起伏図と斜面方位・傾斜の関係についての理解を問うた。問2は，等高線図表現の理解を問うた。問3は，GISの適切な活用方法についての理解を問うた。問4は，内水・外水氾濫の発生要因の違いとハザードマップ活用についての理解を問うた。問5は，日本の猛暑・冷夏年の気温分布と風向・風速分布についての理解を問うた。問6は，気候の地域差と気象警報発表基準についての理解やデータの読み取りを問うた。単純な知識問題ではなく，背景となる知識を踏まえたデータの読み取りと分析により，多面的な視点から考察して解答を導くような設問とした。

第2問 学習指導要領「地理A」の「(1) 現代世界の特色と諸課題の地理的考察」における「イ 世界の生活・文化の多様性」に関する大問である。世界単位，大陸地域（アジアなど）単位，国単位，小地域単位と，様々な地域スケールを小問中に盛り込んでいる。問1は，宗教と関わりの深いイベント的な市場（マーケット）について思考する問いである。問2は，自然環境に順応した農業活動の実態と地域比較，問3は，料理で使われる調味料の原料の国別生産量について主題図から考察する。問4は，国外からの来訪観光客における月別割合の国別比較から各国の特徴を考察する問である。問5は，地域の生活・文化を次世代に伝える役割をもつ世界文化遺産について，環境，歴史，生活から多面的に思考する問いである。問6は，複数の国で話されている言語（英語など）を指標として，地域の特徴を考える問いである。図や資料の読み取りを通じた思考力，判断力を問う設問を多く出題した。大問の難易度は全体として概ね標準からやや易であった。

第3問 学習指導要領「地理A」の「(1) 現代世界の特色と諸問題の地理的考察」における「イ 世界の生活・文化の多様性」に関する大問である。具体的には，「北・中央アメリカの自然・産業・生活・文化」をテーマに，主題図や統計図表などの資料を読み取り解答を導き出すという問いである。また，地域の社会・経済的特徴とその変動などに着目して，その共通性や差異について分析するとともに，その要因を考察できる力を測ることを目的としている。問1は，ケッペンの気候区分から自然環境について問うた。問2は，北アメリカ大陸の農産物産地の分

布からその地域性について問うた。問3は、1970年代以降のアメリカ合衆国、カナダ、メキシコの自動車産業の変化について問うた。問4は、北アメリカ大陸スケールと、グローバルスケールの二つの空間スケールでの貿易の特徴について問うた。問5は、移民と言語のデータから旧宗主国の影響について問うた。問6は、1979年のメキシコ湾での石油流出事故を取り上げ、環境問題の背景となる自然環境について問うた。大問全体を通して自然環境、農業、産業、文化、環境問題を幅広く取り上げ、多面的・多角的に地域的特色を見出す力を問うことができた。

第4問 学習指導要領「地理A」の「(1) 現代世界の特色と諸課題の地理的考察」における「ウ 地球的課題の地理的考察」に関する大問である。問1は、合計特殊出生率の推移から人口増加の地域差を問うた。問2は、国家間の労働移動と難民移動から移動の特性と背景を問うた。問3は、バンコク都心のスラムを題材に、発展途上国における都市問題を問うた。問4は、国別の再生可能エネルギー利用の地域性を問うた。問5は、主要穀物の自給率から世界的な食糧供給体系を問うた。問6は、様々な地球的課題に対する解決策とそれにより生じうる課題を考察し、課題解決の多角的なあり方を問うた。大問全体の平均得点率は標準的であった。受験者に馴染みのない資料を用いつつ、基本的な知識・技能を基に地理的な見方・考え方を働かせて地球的課題の理解を図る問題をバランスよく提示した。

第5問 学習指導要領「地理A」の「(2) 生活圏の諸課題の地理的考察」における「ウ 生活圏の地理的な諸課題と地域調査」に関する大問である。関西の大都市圏から離れた和歌山県有田地方を対象地域とし、地理的技能、思考力を多面的に測る問題として作成した。問1は、紀伊半島の年平均気温と年降水量の等値線図から分布の傾向について考察する問題、問2は、和歌山県全体の産業立地の地域的差異の特徴を、主題図から読み取る問題、問3は、和歌山県における果樹栽培について、全国シェアの高さやブランド化が進んだ事実に関する統計を判断する問題とした。問4は、大縮尺の地図と写真を用いて地域の特徴について思考し、判断する力を問うている問題、問5は、地図で示された範囲について、地域の歴史的変化を示した文と地図から読み取り判断する問題、問6は、地域調査のまとめとして、半島に共通した地域課題を解決する政策について考察する問題とした。スケールや領域など、全体のバランス配分を考慮して出題した問題といえる。

3 ま と め

- (1) 「地理総合」においても、学習指導要領を踏まえた各分野・領域からの出題とし、資料から読み取って得た情報を基に考察する力、知識・技能、探究を深めたり課題を解決したりしようとする力を測る問題作成に取り組んでいきたい。場面設定型の大問では、臨場感をもたせた問題を織り交ぜながら、地理的な見方・考え方を働かせて解答に到達できるような問題作成を検討していきたい。
- (2) 難易度に関しては、「歴史総合」や「公共」など他科目とのバランスに配慮しつつ、適切な難易度の問題作成を検討していきたい。
- (3) 図表や写真などの資料の視認性については、引き続き十分に検討・確認を重ねた上で、作問していきたい。
- (4) 今後の「地理総合」においても、受験者に対する分量や難易度の負担には十分に留意しつつ、新規の資料や臨場感のある問題を交えながら、高等学校等で得た知識・技能を踏まえた地理的な思考力、判断力を問う作問を追求していきたい。

『旧地理B』

1 出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

- 地理に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程を重視する。地理的な見方や考え方を働かせて、地理に関わる事象の意味や意義，特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり，地理的な諸課題の解決に向けて構想したりする力を求める。問題の作成に当たっては，思考の過程に重きを置きながら，地域を様々なスケールから捉える問題や，地理的な諸事象に対して知識を基に推論したり，資料を基に検証したりする問題，系統地理と地誌の両分野を関連付けた問題などを含めて検討する。

2 各問題の出題意図，解答結果及び自己評価等

第1問 学習指導要領「地理B」の「(2) 現代世界の系統地理的考察」における「ア 自然環境」に関する大問である。世界の自然環境と自然災害に関する諸事象を取り上げ，各種地形の特徴や分布，気候・気象と関連した現象・自然災害の季節的・地理的变化について考察させることを目的としている。問1は，大地形の形成メカニズムの知識をもとに，様々な種類の平野を分類する力を，問2は，地球規模の降水量分布，大地形，大河川の流量を関連付ける力を，問3では，降水量分布の季節変動を考察する力を，問4は，代表的な気候帯と植生・土壌とを結び付けて思考する力を，問5は，新旧の衛星画像と地形図の判読による地形形成と防災を関連付けて考察する力を，問6は，自然災害のリスクの概念式を用いて被害とリスクの関連，減災の方策を思考する力を問うている。本大問は，プロセス型の問いであり，生徒が，都市が発達する平野の自然環境について大地形から身近な防災に至るまでを考察する力を問うている。正答率は問6で高く，問2で低かったが，第1問全体の平均得点率としては「地理B」全体の得点率をやや上回った。全体としては，出題形態や難易度のバランスはとれていたと考える。

第2問 学習指導要領「地理B」の「(2) 現代世界の系統地理的考察」の「イ 資源と産業」に関する大問である。各小問では，データの時系列変化を意識させ，将来，重要性を増していくと考えられる素材を取り上げ，時代の変化や将来展望を意識させるように工夫した。問1は，産業や経済活動の基盤としての電力の供給，問2は，第一次産業としての農業の変化，問3は，産業全般を支える運輸の様子，問4は，近代化にともなう輸送手段の変化と産業立地，問5は，第二次産業としての製造業，問6は，第三次産業としての金融を扱っている。国土の概要やその地理的配置，産業をめぐる諸条件や産業構造の時系列変化，産業立地論，各種の製造業における発展途上国，新興工業諸国，先進国それぞれの状況とその変化，国際経済における各国通貨の力関係とその変化についての知識や思考力などが必要となる問いを配置している。問3，問5，問6は概ね想定した正答率であったが，それ以外の小問の正答率は高めであった。

第3問 学習指導要領「地理B」の「(2) 現代世界の系統地理的考察」の「ウ 人口，都市・村落」と，大問リード文では触れていないが，「エ 生活文化，民族・宗教」の内容に関する問いである。問1では，国家スケールの人口（都市人口率）の変化を，問2～問5は，村落・都市という集落を軸として，都市村落の産業構造の特色，都市村落の景観から機能・文化的背景，商業環境と郊外化の進展からみた地方都市及びその周辺の地域構造の変化，都市分布と交通ネットワークから，経済・政治システムの国家間の相違を問うている。また，問6では，国際的な人口移動の特徴を問うている。問3では「生活文化」，問5では「宗教・民族」の内容も含んでいる。また，問1ではグラフ，問2と問6では表，問3では景観写真，問2，問4，問5

では各種地図を用いた問いとし、それらを読み取る能力を問う問題形式として、地理的技能の活用力も問うている。問2と問5の難易度は平均的なものであったが、問1に関しては識別性が高かった。問6に関しては、時間的な背景を含む総合的な考察力を必要とし、歴史的な背景を理解していないとアルジェリアとトルコの判断が難しかったと推測される。

第4問 学習指導要領「地理B」の「(3) 現代世界の地誌的考察」における「イ 現代世界の諸地域」に関する大問である。中央・西アジアの地誌を取り上げ、「歴史的背景を踏まえて多面的・多角的に地域の変容や構造を考察」する力や、「地域にみられる地域的特色や地球的課題について理解」する力を問うた。問1では、中央・西アジアの大地形の特徴を3地域の標高分布図から読み解く力を問うた。問2では、中央・西アジアの4か国における植生を、表から読み解く力を問うた。問3は食文化の多様性について、その地域の交易や文化、自然環境から想起できるかを問うた。問4では、中央・西アジアを特徴づける宗教のイスラームと一人当たりGDPに着目し、大都市の特徴や形成との関連について考察できるかを問うた。問5では、中央・西アジアの各国の違いを示す合計特殊出生率と人口密度、第三次産業従事者割合について階級区分図から読み解く力を問うた。問6では、中央・西アジアと貿易関係の深い、日本とロシアそれぞれの輸出入額について、各国の値を比較して読み解く力を問うた。大問の平均点は『旧地理B』全体の平均点より大幅に低かった。識別性については、問1でやや低かったものの、他の問いでは高かった。

第5問 学習指導要領「地理B」における「(1) 様々な地図と地理的技能」の「イ 地図の活用と地域調査」に関する大問である。関西の大都市圏から離れた和歌山県有田地方を対象地域とし、地理的技能、思考力を多面的に測る問題として作成した。問1は、紀伊半島の年平均気温と年降水量の等値線図から分布の傾向について考察する問題、問2は、和歌山県全体の産業立地の地域的差異の特徴を、主題図から読み取る問題、問3は、和歌山県における果樹栽培について、全国シェアの高さやブランド化が進んだ事実に関する統計を判断する問題、問4は、大縮尺の地図と写真を用いて地域の特徴について思考し、判断する力を問う問題、問5は、よりスケールの小さい地域の歴史的変化を示した文と地図から読み取り判断する問題、問6は、地域調査のまとめとして、半島に共通した地域課題を解決する方策を考察する問題とした。問6の正答率が低く、問3の正答率が高かったが、大問全体では適切な正答率であり、識別性にも問題はなかった。問6の地域課題解決の方策を考察する能力は、今後の社会形成を担う人材育成に必要なものであり、正しい認識をもてる教育が現場で展開されることに期待したい。

3 ま と め

- (1) 『地理総合、地理探究』においても、学習指導要領を踏まえた各分野・領域からの出題とし、資料から読み取って得た情報を基に考察する力、知識・技能、探究を深めたり課題を解決したりしようとする力を測る問題作成に取り組んでいきたい。場面設定型の大問では、臨場感をもたせた問題を織り交ぜながら、地理的な見方・考え方を働かせて解答に到達できるような問題作成を検討していきたい。
- (2) 難易度に関しては、『歴史総合、世界史探究』や『歴史総合、日本史探究』などの他科目とのバランスに配慮しつつ、適切な難易度の問題作成を検討していきたい。
- (3) 図表や写真などの資料の視認性については、引き続き十分に検討・確認を重ねた上で、作問していきたい。
- (4) 今後の『地理総合、地理探究』においても、受験者に対する分量や難易度の負担には十分に留意しつつ、新規の資料や臨場感のある問題を交えながら、高等学校等で得た知識・技能を踏まえた地理的な思考力、判断力を問う作問を追求していきたい。